

そんし せいへん
孫子「勢篇」

孫子五
勢篇 1

19
孫子そんし曰いわく、凡おそ「兵へいを用もちうるに、」衆しゅうを治おさむること寡かを治おさむること寡かを治おさむるが如ごとくなるは、分ぶん数はすうこれな
り。

衆しゅうを闘たたかわしむること寡かを闘たたかわしむるが如ごとくなるは、形けい名めいはいれなり。三さん軍ぐんの衆しゅう、必かなず敵てきに受こえて敗はいなからしむべき者ものは、
奇き正せいはいれなり。兵へいの加くわうる所ところ、礮たんを以もつて卵たまごに投とうずるが如ごとくなる者ものは、虚きょ実じつはいれなり。

20
凡おそ戰たたかいは、正せいを以あて合あひ、奇きを以もつて勝かつ。

故ゆゑに善よく奇きを出いだす者ものは、窮きわまり無なきこと天地てんちの如ごとく、竭つきざるること江河かうがの如ごとく。終おわりて復またた始はじまるは、四し時じはいれなり。
死しして更こも生しやうずるは、日じつ月げつはいれなり。声こゑは五ごに過すぎざるも、五ご声せいの変へんは勝あげて聴きくべからざるなり。色いろは五ごに過すぎざる
も、五ご色しきの変へんは勝あげて観みるべからざるなり。味あじは五ごに過すぎざるも、五ご味みの変へんは勝あげて嘗なむべからざるなり。戰せん勢せいは奇き正せいに
過すぎざるも、奇き正せいの変へんは勝あげて窮きわむべからざるなり。奇き正せいの相あい生しやうずることは、循じゆん環かんの端はしなきが如ごとく。孰たれか能よくこれを

窮きわめんや。

21 激水げきすいの疾はやくして石いしを漂ただよわすに至いたる者ものは勢せいなり。

鷲しちよう鳥うの撃きちて毀折きせつに至いたる者ものは節せつなり。是この故ゆえに善よく戦たたかう者ものは、其その勢せいは險けんにして其その節せつは短たんなり。勢せいは弩どを彊ひくが如ごとく、節せつは機きを發はつするが如ごとし。

22 乱らんは治ちに生しょうじ、怯きようは勇ゆうに生しょうじ、弱じやくは強きように生しょうず。

治乱ちらんは数すうなり。勇怯ゆうきようは勢せいなり。強弱きようじやくは形けいなり。

23 故ゆえに善よく敵てきを動うごかす者ものは、これに形かたちすれば敵てき必かならずこれに従したがい、これに予あたうれば敵てき必かならず

これを取とる。

利りを以もつてこれうごを動うごかし、詐さを以もつてこれまを待まちつ。

故に善く戦う者は、これを勢に求めて人に責めず、故に能く人を扱びて勢に任せしむ。

勢に任ずる者は、其の人を戦わしむるや木石を転ずるが如し。木石の性は、安ければ則ち静かに、危うければ則ち動き、方なれば則ち止まり、円なれば則ち行く。故に善く人を戦わしむるの勢い、円石を千仞の山に転ずるが如くなる者は、勢なり。